

神女広報

vol.21
2016 Winter
CROSSROADS

「自立心・対話力・創造性」活力あるコミュニケーションで結ぶ学園広報誌



神戸市立須磨離宮公園
「プリンセス・ドゥ・モナコ」



特集

10年目を迎えたキャンパス・パーク連携
～風光明媚な須磨の地 神戸市立須磨離宮公園で学ぶ学生たち～

- 6 教育研究活動
- 14 トピックス
- 16 大学連携
- 17 地域連携
- 19 インフォメーション



学校法人行吉学園

神戸女子大学 神戸女子大学大学院 神戸女子短期大学 神戸女子大学教育センター

10年目を迎えたキャンパス・パーク連携

～風光明媚な須磨の地 神戸市立須磨離宮公園で学ぶ学生たち～



全国初 大学と公園が協力するキャンパス・パーク連携

平成18年に神戸女子大学は神戸市立須磨離宮公園と連携して、地域の活動を積極的に進め、地域の活性化をはかるとともに、神戸の市民文化の向上に寄与することを目的として、全国初の大学と公園の「キャンパス・パーク連携」協定（以下C・P連携）を結びました。今回の特集は、平成28年12月で10周年を迎えるC・P連携について、最新の取り組みやこれまでのあゆみを中心にお伝えします。

10年目を迎えたキャンパス・パーク連携

神戸女子大学 地域連携推進委員会 委員長(家政学部 教授) 梶木 典子

神戸女子大学須磨キャンパスに隣接する須磨離宮公園は、風光明媚な月見山とよばれる場所に位置し、本学とほぼ同時期に開園・開学し、須磨区の文化エリアを形成してきました。

平成18年12月には、全国初となる大学と公園のC・P連携を締結しました。この連携により、神戸女子大学の学生と教職員は、須磨離宮公園へ自由に入出りできるようになり、教育・研究の多様なシーンで活用が展開されるようになりました。隣接する公園だからこそ、日常的に学生たちが立ち寄りやすく、身近に感じることができます。

須磨離宮公園は四季折々に美しい花や景色を見ることができます。五感が刺激される自然、歴史と文化が凝縮された空間は、学生たちの自発的・体験的な学びに大いに役立っています。須磨離宮公園には、まだまだ魅力がたっぷりと詰まっています。これからも第二のキャンパスとしてさまざまな取り組みを展開していきたいと思えます。



神戸市立須磨離宮公園

前身は、宮内省(当時)が明治44年～大正3年にかけて造営した皇室の別荘「武庫離宮」。大正天皇や皇太子時代の昭和天皇がご利用。終戦後、昭和42年5月に自然と美しく調和した近代的な欧風庭園「須磨離宮公園」として開園。約82haの広大な敷地は、噴水広場、王侯貴族のバラ園がある本園と、観賞温室、梅園などがある植物園から成り、四季を通じて憩える公園で、平成元年に、「日本の都市公園100選」に選定された。本誌「神女広報」の表紙で、同園のバラを紹介している。



教育の場

🌸 全学共通教養科目に継続ボランティア「めざせ!ローズ・マスター」が加わる

地域連携推進委員会が開講する全学共通教養科目「地域学習」は、建学の精神に基づき、学生が地域の中で体験的に「自立心・対話力・創造性」を育むことを目的とし、学生の積極的な地域連携活動への参加を促す授業です。

授業では、学生はさまざまな地域連携活動に参加しています。平成27年度からは、新たに須磨離宮公園と共同で実施する“Study&Funプロジェクト「めざせ!ローズ・マスター」”と題した継続ボランティアの活動が加まりました。

本活動は、須磨離宮公園において、学生が継続的にバラの手入れや園内ガイドを経験し、バラに関する知識を深め、技術を習得するとともに、地域住民と学生との交流をはかることを目的としています。平成27年度は、8名の学生が参加しており、同園職員の協力で週1回の活動を行っています。本活動のスタートから、学生は園内のバラを観察し、秋には本学オリジナルの「ローズ・カタログ」を作成しました。須磨離宮公園がもつ豊かな自然空間・文化資源を生かした本活動は、参加している学生からの評価も高く、楽しみながら活動している様子がうかがえます。



花から摘みを行う学生

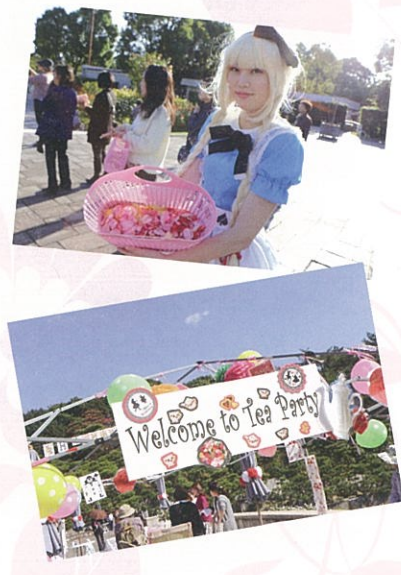


神戸女子大学オリジナル「ローズ・カタログ」を手にする学生

🌸 恒例の「ローズ・フェスタ」で女子大生の感性を発揮!

「ローズ・フェスタ」はC・P連携事業として、毎年、須磨離宮公園で実施している本学主催の音楽祭です。9回目となる平成27年度はイベントのテーマを“Wonderful Time ～素敵なひとときをお届けします～”とし、10月25日(日)に開催しました。

このイベントでは、例年、複数のクラブがステージで演技披露を行ってきましたが、さらに来園者へ同園の魅力を発信するため、新たに学生の感性を発揮したバラを題材とするスペシャル企画も多数実施しました。その結果、来園者にはステージ周辺だけでなく、王侯貴族のバラ園やメインフォールなど公園全体でイベントやバラを楽しんでもらうことができ、須磨離宮公園のバラと学生たちのアイデアが融合した音楽祭となりました。



共同研究

宮内庁所蔵「武庫離宮」資料の調査・分析を行い、傘亭復元事業にも貢献

文学部史学科の梶木 良夫准教授は、C・P連携に基づく共同研究の一環として、須磨離宮公園の前身である「武庫離宮」に関する諸資料の収集と分析を行いました。

須磨離宮公園は、昭和20年の空襲でそのほとんどが焼失した「武庫離宮」跡に整備されています。平成18年から市民、各種団体、企業の協力で「傘亭」(傘形の四阿舎)復元の取り組みが始まり、その過程で梶木准教授は、「武庫離宮」建設の資料で現在宮内庁宮内公文書館に所蔵される「武庫離宮新築工事録」(全42冊:以下「工事録」)の原本の調査と分析を進め、「工事内訳書」や「工事仕様書控」および付属図面などを解読し、その成果を「2008年度須磨離宮公園学連続講座」で発表しました。さらに平成20年には、焼失を免れて原位置に残存していた青銅製擬木柱の頭部に残った部材と屋根組との接合状態などを記録する、神戸大学建築学教室の調査にも参加しました。



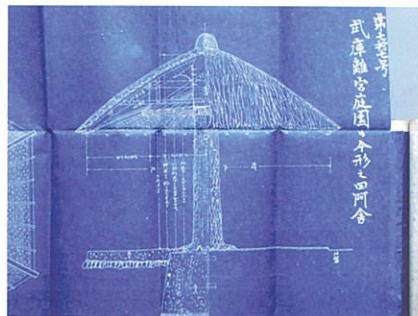
復元された傘形四阿舎。全国でも珍しい竹穂葺六角形の屋根



梶木良夫准教授

復元作業は、焼失した竹穂葺六角形の屋根を「工事録」の材料表および建築仕様書に基づいて忠実に再建する方針で進められ、平成23年に完成しました。

また、復元活動が進められる中で、平成21年に武庫離宮建設に関係した個人の子孫が保管してきた『武庫離宮誌』が発見され、「工事録」にはない離宮建設当時の写真や従事者の管理マニュアルなどの新出資料が含まれていることが判明し、梶木准教授はその成果を平成22年に開催された「武庫離宮展」で発表しました。



「傘形の四阿舎」図面(部分)
神戸市立博物館所蔵「武庫離宮誌」下巻所収

ボランティア活動

神戸まつり「須磨音楽の森」

バラの花が最も美しい5月に開催される「須磨音楽の森」は、毎年多くの人々にぎわうイベントのひとつです。

噴水広場に特設ステージが設置され、さまざまなパフォーマンスがくり広げられます。園内には、模擬店、イベントブースが並び、フィナーレには花火が打ち上げられます。

神戸女子大学は、二つの寮(行幸寮、天神寮)の学生が中心になって、受付・案内、運営補助、清掃活動の協力を例年行っています。平成27年には34名の寮生が参加しました。



須磨音楽の森でのボランティア



ローズキャンドルナイト ハロウィンフェスティバル

秋のローズフェスティバルの一環として開催される「ローズキャンドルナイト」も神戸女子大学の学生が運営を支えます。「ハロウィンフェスティバル」がテーマで、「神戸キャンドルナイト実行委員会ホウキ星」のスタッフと協力しキャンドルの準備や点灯などを行い、イベントの受付、子どもたちのかぼちゃランタンやオリジナルキャンドルホルダー作りの補助をします。平成27年は15名の学生が参加しました。



キャンドルナイトのボランティア





キャンパス・パーク連携の主なあゆみ



平成18年12月	神戸市立須磨離宮公園と「キャンパス・パーク連携」締結
平成19年 4月	家政学部家政学科がオリエンテーリングを実施(以降、毎年実施)
平成19年 5月	神戸女子大学音楽祭「ローズ・フェスタ」開催(平成23年以降、毎年秋に開催)
平成19年 5月	文学部教育学科 中山ふみ江教授担当「レクリエーション実習」の一環として「バラ探検ラリー」を開催(以降、毎年開催)
平成19年 6月	須磨離宮公園より神戸女子大学へ「アンネのバラ」寄贈、植樹
平成19年 9月	「月見の宴」に参加(以降、毎年参加)
平成19年10月	連続講座「須磨離宮公園学」開催
平成19年11月	子育て広場「あいあい」開催
平成19年11月	「秋の洋らん展」に神戸女子大学生賞(コベリヌス・オーキッド賞)誕生(以降、毎年審査)
平成19年12月	「薔薇の花プレゼント」企画に参加
平成20年 3月	「あじさい植樹」を実施
平成20年 6月	須磨離宮公園と共同で「傘亭復元事業」を実施
平成22年10月	キッズオープンキャンパス「離宮手作り・クラフトアートフェア」に参加
平成24年 9月	兵庫県レクリエーション課程認定校連絡協議会 学生合同研修会「逃走中」を実施
平成26年10月	家政学部家政学科 岡本陽子教授の研究室が「武庫離宮造営100年記念行事」に参加
平成27年 4月	全学共通教養科目「地域学習」須磨離宮公園においてオリエンテーリングを実施
平成27年 6月	継続ボランティア活動「Study&Funプロジェクト「めざせ!ローズ・マスター」」始動



今後はC・P連携締結10周年に向け、
さらに教育・研究の両側面から
連携事業の充実を図っていきます。





古典芸能研究センターからの お知らせ

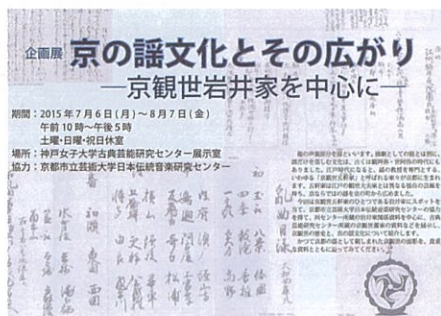


古典芸能研究センターが現在取り組んでいる研究プロジェクト「日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成」(文部科学省平成25年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」採択)では、日本有数の古典芸能関係コレクションを所蔵し、貴重な民俗芸能の宝庫である兵庫(摂津・播磨)に位置する本学の有形無形の資産を生かした研究拠点づくりを目指しています。



古典芸能研究センター展示室

企画展「京の謡文化とその広がり —京観世岩井家を中心に—」



平成27年7月6日(月)から8月7日(金)の期間、古典芸能研究センター展示室で、企画展「京の謡文化とその広がり—京観世岩井家を中心に—」を開催しました。この展示では、江戸時代に京都で育まれた独自の謡「京観世」をテーマに、センター初の試みとして、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センターの協力を得て、同センター所蔵岩井家(注)資料を中心に、古典芸能研究センター所蔵菌家(注)資料などをあわせて展示することで、京の謡文化と歴史について紹介しました。

(注)京観世五軒家(京観世の謡教授を専門とする家々)の内

企画展「説経「おぐり」の世界—説経節の広がり—」

平成27年10月13日(火)から12月11日(金)の期間、企画展「説経「おぐり」の世界—説経節の広がり—」を開催しました。この展示は、平成27年秋に古典芸能研究センターが開催した「説経節」に関わるふたつの催し、特別講座「説経節一人は神仏に何を托そうとするのか」と公開研究会「説経節—情念の語り物—」にちなんで企画しました。センター所蔵の志水文庫から、説経「おぐり」に関連する資料として、説経のテキストである正本や説経「おぐり」を基にしてさまざまに展開された浄瑠璃や歌舞伎の資料、「おぐり」の世界に大きく関わる仏画などを展示しました。



「せつきやうおぐり」(表紙の断片)



錦絵「春鬼驃小栗外伝」

特別講座「説経節—人は神仏に何を托そうとするのか—」

古典芸能研究センターでは、神戸女子大学・神戸女子短期大学オープンカレッジ秋期講座で特別講座「説経節—人は神仏に何を托そうとするのか—」を開講しました。

特別講座「説経節—人は神仏に何を托そうとするのか—」

期間：平成27年10月14日(水)～11月18日(水) 毎週水曜・全6回

1. 説教から説経へ

小林 直樹(大阪市立大学大学院文学研究科教授)

2. 「さんせう太夫」の物語 —肌の守りの地藏菩薩と氏系図—

井上 勝志(古典芸能研究センター兼任研究員・神戸女子大学文学部教授)

3. 「かるかや」の物語 —四国の弘法大師伝承との関係—

武田 和昭(真言宗 七宝山 円明院住職)

4. 「松浦さよ姫」の物語 —人身売買と人身御供—

阪口 弘之(古典芸能研究センター特別客員研究員・神戸女子大学名誉教授)

5. 「小栗判官」の物語

川端 咲子(古典芸能研究センター非常勤研究員)

6. 折口信夫の説経研究

川森 博司(古典芸能研究センター長・神戸女子大学文学部教授)



公開研究会「説経節—情念の語り物—」

古典芸能研究センターでは、研究プロジェクト「日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成」の一環として公開研究会「説経節—情念の語り物—」を開催しました。

公開研究会「説経節—情念の語り物—」

日時：平成27年11月28日(土)10時半～16時半

場所：神戸女子大学教育センター 5階特別講義室

主催：神戸女子大学古典芸能研究センター研究プロジェクト

「日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成」

(平成25年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択(研究観点「研究拠点を形成する研究」))

【実演と講演】

絵解きと説教

沙加戸 弘(大谷大学名誉教授)

【講演】

語り物としての説経

阪口 弘之(古典芸能研究センター特別客員研究員・神戸女子大学名誉教授)

【研究発表】

説経の基層—唱導説話からのアプローチ

小林 健二(古典芸能研究センター客員研究員・国文学研究資料館教授)

絵画化された説経—絵巻、奈良絵本のさまざま

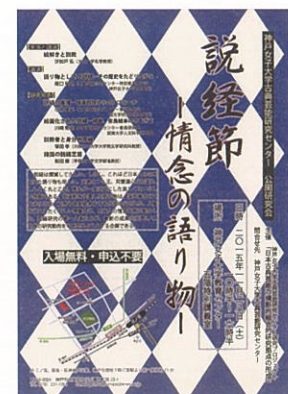
川崎 剛志(古典芸能研究センター客員研究員・就実大学人文科学部教授)

説教者と身分的周縁

塚田 孝(大阪市立大学大学院文学研究科教授)

諸国の説経芝居

和田 修(早稲田大学文学部准教授)



科学研究費助成事業に採択された研究紹介

幼保一体化に向けた 保育カリキュラム・モデルの構築

神戸女子大学文学部 教育学科 教授 大橋 喜美子



2012年「子ども・子育て関連3法案」によって、国は子育てを巡る現状を明らかにし、「質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供」「保育の量的増大・確保」について幼保一体化を推進しました。しかし、日本の幼児教育・保育は、1947年以来、法的には学校教育法と児童福祉法と二元化を保ち実施されてきたことから、幼保一体化(一元化)^(注1)への移行は困難を極めました。

2015年4月には、幼稚園と保育所(園)の機能の良さを統合するとした、子ども・子育て新制度がスタートしました。しかし、ここでは女性の労働力を支えるためとされた保育施設の拡大は、質より量が優先され、思春期を見通した子どもの発達を第一に考える保育の質は、深刻な保育者不足などにも影響され保育現場の問題をより深刻なものにしています。

本研究では、そうした国の施策による一連の流れから、どの子どもにも平等な教育・保育の提供が急務と考えて、幼保一体化に向けた保育カリキュラムの構築について取り組んできました。基礎研究として、幼稚園と保育所(園)の保育者の保育観の相違について実施したアンケート調査では、幼稚園と保育所(園)の保育者間において、保育の計画性に有意な差がみられ、両者の保育観に明らかな相違がみられました。保育の計画性に着目して研究をすすめると、近年の子どもを巡る問題から、特に自己肯定感の育ちを保育カリキュラムに組み込むことが必要であると認識するようになりました。



高い椅子とテーブルで大人と会話しながら…

そこで、幼保一体化を基本としているデンマークの「総合保育園」が自己肯定感の育ちを大切にしている点に注目しました。2014年と2015年に実施したデンマークの保育視察(写真参照)では、全ての環境を通して、自己肯定感を育てる保育が実践され、子どもは人格を備えた人として育てられていることを実感しました。現在、保育者と子どもの会話から、自己肯定感が育つプロセスについて分析をすすめようとしているところです。

保育の基本方針は、日本と類似している点もありますが、デンマークの保育は、全ての子どもに対して社会省^(注2)が出している「社会サービス法 子どものためのデイ・ケア施設の目的」において明らかにされています。

日本の保育は2015年度から始まった新制度により一体化ではなく多様化されました。すべての子どもが平等に保育を受けることができるよう、本研究では、自己肯定感が育まれる保育観を軸とした「日本の保育カリキュラム・モデルを構築する」ことを課題としてすすめています。

(注1) 一体化(一元化)…幼保一体化の用語は自民党から民主党へ政権が変わった時に、従来の幼保一元化に代わるものとして表記され、そのまま現在も使用されている。

(注2) 社会省…デンマークの保育指針は2004年ソーシャルサービス法に基づいて社会省より出されている。社会省とは、乳幼児保育を含む福祉関係や社会問題など所轄する省だが、2014年より「子ども、男女の平等、インテグレーション社会的リレーションシップ省」と所轄部門の名称が変わっているが、保育指針の内容はそのままである。



-10°Cでも2歳頃までは暖かいお布団や衣類に包まれて可動式ベッドでお昼寝



木立の中でゆったりと遊べる園庭

古文書検定 文学部史学科の取り組み

～歴史をひも解く基礎力を自発的に身につける～

神戸女子大学文学部 史学科では、日本の歴史・文化の特性と世界の歴史・文化の多様性をふまえて、自ら考え、調べ、議論することができる人材を養成することを教育研究上の目的のひとつとして掲げています。

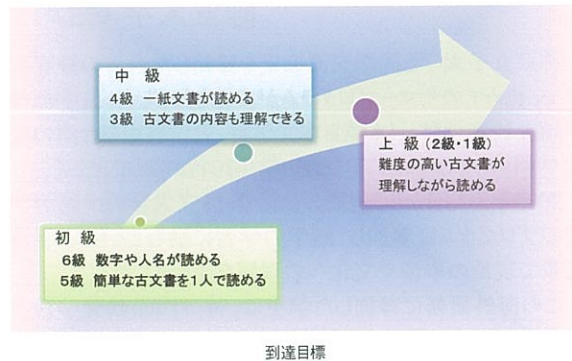
歴史を学び研究していく上で欠かせないのが古文書を解読する能力です。「くずし字」を読む技能の習得にとどまらず、古文書が書かれた時代の特徴や、歴史知識の獲得を目指す自主学習システムとして「古文書検定」を実施しています。

「古文書検定」は、平成21年度から3年間の試行期間を経て、平成24年度から学科の事業として正式に開始されました。入門者向けの6級から、あらゆる古文書を読みこなせる能力が身につく上級者向けの1級まで、6階級のクラスを設定しています。受講者は段階的に高度な古文書に挑戦し、より難易度の高い級を目指して学習に励むことができます。仕組みになっています。また、テキストは史学科の教員が自ら作成し、eラーニングで好きな時間や場所で学ぶことができます。

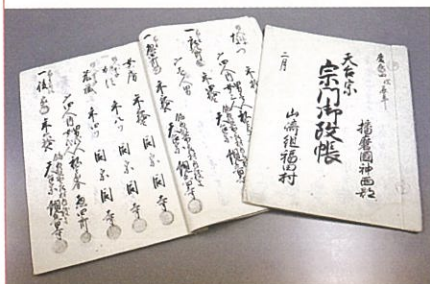
平成27年7月に実施された同検定では、33名の受験者から6級3名、5級1名、4級2名、3級1名の計7名の学生が合格しました。

この検定では初めて3級の合格者が出ました。合格者の3年生の学生は「古文書は難しいけれど、読めるようになると勉強が楽しくなった。4年生になれば、武士の日記を読み解き参勤交代の研究をしたい。将来は古文書を解読する仕事に就きたい」と話しています。

博物館学芸員、図書館司書を目指す学生には、古文書を読みこなす力が特に必要とされ、自主的に学習できる古文書検定のWebサイトは大いに役立っています。また、同検定の勉強で解読力が身につくにつれ、資料を直接読み解けるようになると、郷土の歴史にも関心が深まり、卒業研究に取り上げる学生も現れています。



古文書検定 専用Webサイト



学生が古文書検定のために学習している古文書の一部



認定証授与式の様子
古文書検定委員会 委員長今井修平教授から認定証を授与される学生



認定証を手に史学科教員と共に記念撮影



1983年	ハワイ大学(米国)	2010年	ウダヤナ大学(インドネシア)
1993年	ケント大学(英国)	2010年	西安工程大学(中国)
1997年	フライブルク大学(独国)	2010年	カセサート大学(タイ)
2000年	華南師範大学(中国)	2010年	高麗大学(韓国)
2006年	ガジヤマダ大学(インドネシア)	2011年	チェンマイ大学(タイ)
2006年	オークランド工科大学(ニュージーランド)	2011年	カリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校(米国)
2006年	ピッツァー大学(米国)	2012年	アイルランガ大学(インドネシア)
2007年	チェンドラワシ大学(インドネシア)	2014年	静宜大学(台湾)

静宜大学(台湾)の海外研修はじまる

神戸女子大学と国際交流協定を締結した台湾の静宜大学で、初めてのサマープログラムが実施されました。文学部神戸国際教養学科、日本語日本文学科、史学科から台湾の文化や中国語を積極的に学びたい学生10名が参加しました。

2015年8月3日から3週間の日程で、静宜大学の中国語学習のプログラムに参加し、語学の学習に励むとともに、学外授業で現地の事情や文化への理解を深めました。

この海外研修に参加した学生は、神戸国際教養学科の王霜媚教授が担当する「オフ・キャンパス・プログラムI」を

履修し台湾の歴史や文化を事前に学習していました。

研修は、月曜日から木曜日までは集中的に中国語を学習し、護身術や台湾の料理も学びました。金曜日には、サーヴィス・ラーニングで、幼稚園や障がい者施設を訪問し台湾の教育と福祉への理解も深めました。学外では、大甲媽祖廟、故宮博物院、九族文化村などを見学し歴史や文化を学びました。

参加した学生は、短期間で中国語の聞く、話す、書く、読む能力が高まったと実感でき、再び台湾を訪れさらに知識を深めたいと話していました。



静宜大学で中国語を学ぶ様子



護身術を学ぶ学生たち



海上の神様・航海神として信仰を集める媽祖が祭られている鎮瀾宮で記念撮影

北欧型福祉を学ぶ新たな「国際健康福祉プログラムⅢ」誕生

神戸女子大学健康福祉学部では、世界の健康と医療の現状における問題を知り、国際感覚を身につけ世界で活躍できる人材を養成することを目的のひとつとしています。

2015年度から、福祉国家として知られる北欧諸国の福祉について仕組みや制度を学ぶ「国際健康福祉プログラムⅢ」(担当:木村 あい准教授、清水 弥生准教授、泉 妙子教授)が新たに開講されました。今回は、デンマークのスタディツアーを実施しました。

事前に北欧の社会福祉、医療、労働環境、介護福祉に

ついて学び、2015年9月5日から1週間の日程で、同学部社会福祉学科の木村准教授と共に、3年生4名と4年生4名の学生が参加しました。

福祉施設、介護福祉士養成校、幼児教育機関を訪問し、福祉先進国デンマークの実情を学びました。学生たちは自然との触れ合いを重視した幼児教育や、無理なく介護できる機器が導入されている施設が特に印象に残りました。福祉に携わる人々が個人を尊重し介護の仕事を楽しんでいる姿を、自分たちの理想の将来の姿として捉え、今後の勉学の励みになりました。



訪問先の統合型幼稚園で記念撮影



統合型幼稚園で説明を受ける学生



介護福祉士養成校で高齢者の移乗を助ける天井リフトの使い方を教わる様子

デンマーク・オレロップ体育アカデミー エリートチームによる 「演技発表会&講習会」開催

遠くデンマークから国際親善のためオレロップ体育アカデミーのエリートチーム30名が来日、平成27年10月15日(木)に神戸女子大学須磨キャンパスでデンマーク体操の「演技発表会&講習会(ワークショップ)」を本学主催(文学部教育学科主担)で開催しました。

このチームは同アカデミーの卒業生で構成され、体操パフォーマンスやワークショップを通して国際交流を深めるために、これまで多くの国を訪問してきました。今回は5年ぶりの来日となりました。

本学は昭和56年にデンマーク体操部が創部され、現在も活発に活動が続けています。また、過去に3名の学生が同アカデミーに長期留学をした経緯があり、前回の来日に続き今回も本学で「演技発表会&講習会」を開催していただきました。

午前の講習会は、本学の学生や一般の参加者約200名がダンス、マット運動や跳び箱といった運動をエリートチームメンバーの指導やサポートを受けて

行いました。

午後の演技発表会には、さらに多くの観客が華麗な演技を鑑賞しました。優雅なメロディーにあわせて、バレエを彷彿とさせるダンスから、迫力のある宙返りやこん棒を使った新体操を連想させる演技まで、観客はデンマーク体操の魅力を存分に味わいました。

午前のワークショップに参加した学生からは「久しぶりに汗を流し、すがすがしい気分になった」「エリートチームの方にサポートしてもらい、難しいマット運動も安心してできた」といった感想が聞かれました。午後の演技発表会で特別に演技を披露したデンマーク体操部の部員は「体操の演技でありながら演劇のような構成に感心した。今後の部活動の参考にしたい」と新たな意欲を語っていました。



ワークショップの様子



デンマーク体操部の演技



司会は文学部教育学科の
齊山美津子教授

デンマーク体操は、競技体操ではなく、多くの人々の健康・体力・仲間づくりを目的とする体操で、筋力、柔軟性、巧緻性を高めます。音楽をアシスタントとして、幼児から高齢者まで無理なく楽しみながら身体機能を整える効率の良い動きを目指します。日本のラジオ体操は、デンマーク体操の流れを汲んでいます。



新開講「アレルギー対応食実習Ⅰ」

神戸女子短期大学食物栄養学科では、食を取り巻く多様な問題に対応できる栄養士の養成を目指しています。

平成26年度から、食物アレルギーに対応した授業「食物アレルギー論」を開講し、平成27年度前期は「アレルギー対応食実習Ⅰ」(担当：本田 まり准教授)を開講しました。夏休み中の集中講義に同学科の2年生約20名が受講しました。

乳幼児期の食物アレルギーの原因食品となる頻度が高い「鶏卵」「牛乳」「小麦粉」を使わず、代替の食材を使い、見た目や味も本来の料理と変わらずおいしく食べられる調理方法を学びました。

実習後の演習では毎回、栄養価計算などの栄養面の考察を行いました。最終日には、ヒヤリハット事例を教訓にあげ、食品表示の再確認の必要性や、安全な食材の保管・取扱い方法、調理手順の工夫などについて確認し、さらに組織をあげての情報共有や事故防止対策が重要であることも学びました。

学生からは「食物アレルギー対応食を作る自信がいった」「オムライスもどきは、見た目が本当のオムライスみたいに作ることができ感激した」といった感想が聞かれました。



カボチャを卵に見立てたオムライスもどき



調理実習の様子



魚のコーンクリームかけ(左)、豆乳シチュー



最終日のおさらいの講義と実習のまとめの様子

管理栄養士養成課程の学生 料理教室「じゃが's キッチン」を開催

平成27年9月24日(木)神戸女子大学家政学部 管理栄養士養成課程の田中 紀子教授と4年生のゼミ生5名が、神戸市立和田岬小学校の5年生34名に、じゃがいもを使った料理教室を神戸市産業振興局 中央卸売市場運営本部本場と共同で開催しました。

じゃがいもは、北海道のホクレン農業協同組合連合会からご提供いただきました。

調理実習の前には、田中教授がミニ講義を行いました。一般的に知られていないじゃがいもの原産地、種類、栄養について説明し、メインディッシュのカレーについても、カレー粉が日本に伝わった経路や神戸との関わりなどをクイズも取り入れて分かりやすく講義しました。

調理方法と手順の説明は学生が担当し、実習中は子どもたちをサポートしました。「カレースープ」は、市販のルウを少々とカレー粉を使い、じゃがいもや夏野菜をふんだんに使って栄養バランスの良いヘルシー料理にしました。「ポテトサラダ」では、「メークイン」と「男爵」の2種類を使いそれぞれの食感を味わえるようにしました。

この料理教室は、学生たちの食育の実践活動となりましたが、後日子どもたちから可愛い感謝の手紙をいただき、一層のやりがいと喜びを感じる場となりました。この経験は管理栄養士として将来活躍するための大事なステップとなるでしょう。

メニュー

ターメリック・バターライス
カレースープ
ポテトサラダ
梅ジュレ
(学生が作り当日持参)



調理の手順を説明する学生



「じゃが's キッチン」で作った料理



料理教室を終えて田中紀子教授(左から2人目)と記念撮影

看護学部 初めての学外実習へ

神戸女子大学看護学部は、自らの役割を果たす判断力と実践力を身につけ、地域や社会の保健医療福祉の場において自立して活動できる看護の専門職を養成することを目指しています。教室で学んだ知識と技術を現場で実践できるように、4年間の中で多くの実習を経験するのですが、その第一歩となる「医療看護実習I」を平成27年9月14日(月)から18日(金)に行いました。

実習が始まる前には、実習中に起こりうる場面を想定し、患者と学生の安全を守るためどのように行動したらよいかを考える事前演習を行いました。また、院内感染について感染経路と予防策の講義があり、標準的な予防策として、衛生学的手洗いや手袋、マスク、エプロンといった感染防護具の着脱をスムーズにできるよう繰り返し練習しました。

学生は、実習病院で患者に寄り添う気持ちをさらに培うことができ、看護師になる自覚も新たに真剣に実習に取り組みました。



事前の実習ガイダンスの様子



事前演習の様子
患者の安全を考える演習では、学生も患者役を体験



事前演習の様子
感染防護具の着脱の練習と手技の確認

「関西デザイン学生シンポジウム2015」に参加

平成27年10月12日(月)にグランフロント大阪北館ナレッジキャピタルで「関西デザイン学生シンポジウム2015(注)」が開催され、インテリアや住空間のデザイン・建築を教育・研究する学部、学科が設置された大学や専門学校5校が参加しました。

今年は「フェアリーテール」(童話、おとぎ話)をテーマに、工業製品や建築空間を自由な発想でデザインしました。

神戸女子大学は、KIPA代表として家政学部家政学科来海素存准教授の3年生のゼミ生10名が、映像や模型を駆使して15分間の発表を多くの参加者の前で行いました。

昨年も、同シンポジウムに来海素存准教授の3年生のゼミ生が参加し、「おもてなしのデザイン」というテーマで神戸の中心街を想定敷地にした旅館を提案しました。今回は、先輩が

題材とした旅館に、童話のストーリーと住機能を新たに融合しました。

童話は「オズの魔法使い」を選び、同作品の“仲間と協力する”というテーマをもとに、集客に悩む旅館をリノベーションしたシェアハウス「OVER THE RAINBOW」を考案しました。コミュニケーションがとれる共有スペースと、自由に過ごせる個室とのバランスが取れ、安心感があり、内装は色彩豊かにまとめられた夢の住宅としました。日常生活空間と童話を融合するというアイデアです。

コメンテーターの方々からは、ゼミ生が良くまとまってテーマに取り組み、童話をストレートに建築に取り入れたことや、手作りの模型に対して高い評価をいただきました。

(注)共催4団体

JCD:一般社団法人日本商環境デザイン協会関西支部
JID:公益社団法人日本インテリアデザイナー協会西日本エリア

JIDA:公益社団法人日本インダストリアルデザイナー協会関西ブロック
KIPA:一般社団法人関西インテリアプランナー協会



プレゼンテーションの様子



発表終了後に模型を持って来海素存准教授と記念撮影



オズの魔法使いを題材にしたシェアハウス「OVER THE RAINBOW」の模型

ポートアイランドキャンパス コモンスペース — 学生が自由に学び、学会や研究発表の場としても活用 —

平成27年4月の看護学部開設に伴い建設されたF館のホールと図書館に設置したライブラリー・コモンズは、コモンスペースとしてアクティブな学びやリラックスもできる空間として学生に広く利用されています。また、教員の研究発表の場としても活用されています。

F館1階 コモンスペース ランチタイムに異文化体験

平成27年9月29日(火)から10月2日(金)の4日間、国際交流推進委員会主催の「第1回 国際ランチタイム報告会」が看護学部において開かれました。この催しは、学内で気軽に異文化に触れる機会を作り、学生が国際的視野をもつことを目的に始まりました。

食事ができるコミュニティスペースでの報告会は、自由に参加でき、ランチタイムも有効に利用できると学生に好評です。

教員の海外での研究活動報告や、海外研修に参加した学生の体験発表など、誰でも自由に聞くことができます。今回は、看護学部で研修したフィリピンの大学院生、看護学部・健康福祉学部の教員と学生による研修・研究発表がありました。今後も定期的実施する予定です。



国際ランチタイム報告会の様子

B館 ライブラリー・コモンズ 学会を開催

平成27年10月3日(土)に「日本国際秘書学会第24回研究大会」が開催され、全国から大学教員、企業の関係者が参加しました。

「人材育成としての秘書教育—秘書的資質へのアプローチ—」を大会の統一テーマに、研究報告・研究発表が行われました。

この大会では初の試みとして、参加者全員によるラウンドテーブル形式のディスカッションが実施され、図書館3階のライブラリー・コモンズが会場になりました。

利用目的によって自由に組み合わせができる机を備えたライブラリー・コモンズは参加者に好評で、活発な意見交換が行われました。



日本国際秘書学会の様子

ポートアイランドキャンパス 憩いの場 広がる

平成27年4月にポートアイランドキャンパスの学舎の一部を改装しました。

学生食堂は、学生の増加に伴いスペースを広げ、収容人数を増やしました。

A館とB館をつなぐセンターホールは、カーテンウォールの構造で、ランドや中庭が見渡せる開放感のあるスペースです。そこを憩いの場として利用できるようにカウンター席を設置し、ソファ、テーブル、椅子を備えました。

また、2階にあった売店を1階へ移転。学生が事務室、学生食堂、図書館へ行く動線に位置し、便利になりました。



1階に移転した売店



増設された学生食堂



センターホール：外の景色を眺めながら自由に過ごせる空間



防災の意識を高める取り組み - 学園祭で -

平成27年11月7日(土)・8日(日)の2日間、須磨キャンパス、ポートアイランドキャンパスで学園祭が行われ、日頃から防災活動に取り組んでいる在学消防団員や防災について研究している研究室のゼミ生が、災害への備えや防災の啓発活動を行いました。

須磨キャンパス：コスモス祭 神戸女子大学消防団「みんなでまなBOUSAI」

須磨キャンパスには現在15名の在学消防団員が在籍し、地域の安全活動や防災訓練に参加しています。

コスモス祭では、消防団の活動の紹介や、防災クイズ、AED講習、非常食の配付などを行い、防災の啓発に取り組みました。

消防団員の中には、阪神・淡路大震災を経験していない世代に震災の記憶と教訓を伝えるため、神戸新聞社と神戸市などが立ち上げた「117KOBEぼうさい委員会」のメンバーとして他大学の学生とともに活躍している学生もいます。



須磨消防団の方も防災活動の一環として参加



防火服の試着に協力

ポートアイランドキャンパス：PI神女祭り 松浦ゼミ「災害にそなえよう」

健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科の松浦 紀美恵講師の研究室では災害時の「食」をテーマに、幼児や高齢者にも対応できる緊急時の食事や保存食を研究しています。

学園祭では、普段使う食品を利用し火を使わずに調理するビニールクッキングの方法を紹介し、非常時に備える生活用品や保存食品を展示しました。実際にビニールクッキングでサラダを作った来場者には「身近な食品で簡単においしく作れることがわかった」と好評でした。



来場者とビニールクッキングでサラダを作る学生



松浦紀美恵講師(前列中央)とゼミ生と有志の学生

学生寮の菜園

神戸女子大学行幸寮は、平成21年3月に竣工された全部屋個室型(マンションタイプ)の学生寮です。寮内には、日頃から学生たちが集うラウンジがあり、定期的にイベントやセミナーを開いています。また、昨年度にはルーフトラスを利用した菜園を作りました。寮生たちが協力して季節の野菜を栽培し、収穫した野菜を使って各自がさまざまな工夫をこらした料理に挑戦しています。自分で植えた野菜を大切に育てることは大変ですが、採れたての野菜でさっそく鍋パーティを開くなど、新たなコミュニケーションの場も生まれています。



学生が育てた野菜



さつまいもの収穫



採れたての野菜でおやつタイム



神戸女子大学の卒業生 日本薬学会で優秀発表賞を受賞

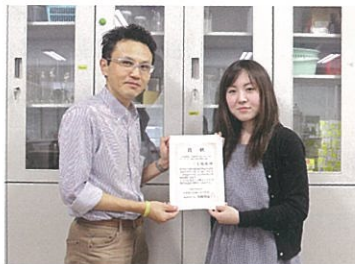
平成26年度に神戸女子大学健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科を卒業し、現在、東北大学大学院農学研究科 生物産業創成科学専攻に在籍している三上 優依さんは、平成27年3月に開催された「日本薬学会第135年会」で優秀発表賞を受賞しました。

この賞は、吉川 豊教授の指導の下、卒業研究になった「加温熟成した植物性食品に

おける α -グルコシダーゼおよびACE阻害活性」という研究題目を日本薬学会で発表し、高く評価されたことによるものです。

現在は、動脈硬化の原因となる酸化したLDL(低比重リポたんぱく質)についての研究に明け暮れる毎日ですが、充実した生活を送っているとのこと。

夏休みには母校を訪れ、後輩たちに研究方法や実験についてアドバイスを励ましてくれました。



吉川豊教授に受賞の報告をする三上優依さん



後輩の学生にアドバイスを三上さん

文部科学省 大学間連携共同教育推進事業

「教員養成高度化システムモデルの構築・発信」遠隔講義システムが本格的に

連携大学

兵庫教育大学
神戸親和女子大学

兵庫県立大学
武庫川女子大学

神戸学院大学
神戸女子大学

文部科学省の平成24年度 大学間連携共同教育推進事業に兵庫教育大学が代表校となり応募した「教員養成高度化システムモデルの構築・発信」は、大学院に教職課程をもつ上記の大学が連携し、それぞれの実績、特色、資源を生かした相互補完と協働により、高度な教員養成システムを実現することを目標にしています。

この事業は、連携大学院で開講されている幅広い分野の講義が受けられるので、教員を目指す大学院生に好評です。

採択から3年が経過し、文部科学省は平成27年6月に中間評価を発表しました。本事業は5段階評価で上から2番目の「計画通りの取組みであり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる」という評価を受けました。

神戸女子大学大学院では、平成26年度前期に兵庫教育大学大学院と単位互換科目の遠隔講義を始め、平成27年度後期からは、各連携大学院と相互に遠隔講義を開始しました。本学では、次の講義を学生に提供しています。

文学研究科 英文学専攻 アン・ケーリ教授 「国際言語文化学演習b」
家政学研究科 食物栄養学専攻 狩野 百合子教授 「栄養化学特論」



アン・ケーリ教授による遠隔講義



狩野百合子教授による遠隔講義

管理栄養士を目指す学生 地元企業と産学連携でメニュー考案

神戸女子大学家政学部 管理栄養士養成課程の学生は、「食」と「健康」のエキスパートである管理栄養士として活躍することを目標に、日々勉学に励んでいます。これまでに学んだ食材や栄養に関する知識、調理方法を生かして、地元企業山陽電鉄のグループ会社と連携し、多くの方に喜ばれるメニューを開発しました。

舞子ホテル 「健康」がテーマのランチメニュー

同課程の林 利恵子准教授の4年生のゼミ生9名が、若い感性を生かしてパスタとドルチェ(デザート)を考案。株式会社舞子ホテルのランチメニューに登場しました。同ホテルでは、近年話題となっている健康志向のメニューの創作に取り組む中で、本学との共同企画が実現しました。

学生たちが考案したパスタは、ヘルシーで彩りの良い季節野菜にEPA、DHA(注)をたっぷり含むまぐろも加わり、レモンの酸味が食欲をそそります。ドルチェは野菜を取り入れた豪華な3種盛りです。

管理栄養士を目指す学生ならではのアイデアが、幅広い年齢層の方に喜ばれました。



林利恵子准教授(前列中央)とゼミ生

(注)EPA(エイコサペンタエン酸)、DHA(ドコサヘキサエン酸)…動脈硬化の抑制や血栓症予防の作用があるといわれている。



発売期間:平成27年10月15日(木)~11月30日(月)

メニュー:まぐろと季節野菜の冷製パスタ(写真左)、
ドルチェ(写真右、右から時計回りに)
ごぼうのチョコレートケーキ、
かぼちゃのカタラーナ、
トマトの豆腐レアチーズケーキ

山陽そば 若い女性にも喜ばれる新感覚の洋風うどん

同課程の橋本 加代准教授の4年生のゼミ生8名が、大阪山陽タクシー株式会社が経営する「山陽そば」とコラボレーションを行い、新感覚の洋風うどんを開発しました。

駅そばは、気軽に利用できる便利な飲食店ですが、男性客が中心で客層が限られています。同社から、「若い女性にも駅そばの利点をPRし、幅広い年齢層のお客様に来ていただけるようなメニューを加えたい」との考えのもと、本学との共同企画が実現しました。

「短時間で調理でき、年間を通し調達可能な食材を使う」「駅そば店舗独自の厨房で調理できる」などの条件をクリアして、2種類のうどんを完成させました。現在も好評発売中です。



メニューを考案したゼミ生と橋本加代准教授(右)



発売期間:平成27年11月1日(日)~
平成28年3月31日(木)

商品名:イタリアントマトうどん(左)
とろけるチーズのカレーうどん(右)

価格:税込450円

神戸女子大学 「高齢者のためのADL体力アップ講座」



須磨キャンパス：タオルを使った体操

「高齢者のためのADL体力アップ講座」は、神戸女子大学健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科の重福 京子准教授が行っている人気の公開市民講座で、60歳から80歳までの地域の方を対象としています。

本講座は、平成14年度に神戸市と提携し、「健康こうべ21」推進事業の一環として須磨キャンパスで始まった高齢者の健康づくり講座「ADL：Activities of Daily Living 日常生活動作活性のための体操講座」が源流です。平成18年の健康福祉学部開設に伴い、ポーアイ4大学連携事業の「健康推進プロジェクト」のひとつとして開講されました。

現在は、看護師の資格をもつ教員とスポーツライフマネジメント部の学生がアシスタントを務め、1年間に須磨キャンパスで10回、ポートアイランドキャンパスで20回開講しています。

“身の周りのことは自分で出来る体力”の維持・向上を目標に、有酸素運動の「ソフトエアロビクス」「ストレッチ」、筋力トレーニングの「自体重を用いたトレーニング」「チェアエクササイズ」などを行い、家庭でも出来る運動を提供しています。

受講者には、毎回体操の前に血圧測定をして個人カードに記録し、体調

の自己管理を行い、

無理せず楽しく参加していただくことを心がけています。

重福准教授の軽妙な語り口による指導で、軽快なテンポの音楽や時には癒しを感じるゆったりしたメロディーに合わせて、自分のペースで運動ができます。“新たな仲間づくり”の場になることも重要な要素であり、トレーニングにレクリエーションも取り入れ受講者同士のコミュニケーションが取れるように工夫しています。

4年以上の継続者では、文部科学省の新体力テスト総合評価において、体力テストの数値は低下していないという結果が出ています。

スタッフの教員と学生は、受講者が毎回、爽やかな笑顔でお帰りになるのが励みになり、講座を運営していく活力の源になっています。



須磨キャンパス：血圧を測定する受講者の皆さん



ポートアイランドキャンパス：ゆったりとしたストレッチを取り入れた動き



須磨キャンパス：椅子を使った体操



ポートアイランドキャンパス：輪になってゲームも取り入れて



講師の重福京子准教授(前)と
スポーツライフマネジメント部の学生

学園からのお知らせ

○大学院健康栄養学研究科設置のお知らせ

研究科 専攻名称:健康栄養学研究科 健康栄養学専攻(修士課程)

入学定員:4名(収容定員:8名)

設置場所:神戸女子大学ポートアイランドキャンパス 神戸市中央区港島中町4丁目7番2号

開設日:平成28年4月1日

○地震被害のネパールへ思いをこめて ~同好会が学園祭でコーヒー販売~

神戸女子大学の須磨キャンパスで活動する同好会nicoloop(ニコループ)が、平成27年の学園祭で、ネパールの農家が栽培したコーヒーを販売し、日本国内の販路を広げる活動の支援の一助としました。

nicoloopは、学内外において、フェアトレード(注)の推進活動や勉強会を神戸市内の大学生と共に行っています。

(注)フェアトレード・・・発展途上国で作られた作物などを適正な価格で取引することによって、生産者の生活向上を支える仕組み。



○「KOBE“にさんがろく”PROJECT」準グランプリ受賞

神戸市では、神戸産農水産物の魅力をトータルにPRするために、市内の若者・企業・農漁業者の三者連携による取り組み「KOBE“にさんがろく”PROJECT」を平成24年度から行っています。

平成27年11月26日(木)に開催されたアイデア提案会で、神戸女子大学家政学部管理栄養士養成課程の木村 万里子准教授のゼミ生3年生のチーム「Beans Club」が、準グランプリを受賞しました。

白いいげん豆粉と豆乳を用いた生地に、神戸産の黒豆、小豆、トラ豆を煮豆にしてトッピングし、不足しがちな食物繊維、鉄、カリウムなどの栄養素を豊富に含んだおしゃれなパウンドケーキが、高く評価されました。

「Beans Club」にご協力いただいた企業は以下のとおりです。

- 株式会社小池農園こめハウス
- 昭栄堂製菓株式会社



「Beans Club」の学生と木村万里子准教授(左)



学生が考案した「KOBEまめっこパウンドケーキ」

○平成27年度 文化庁長官表彰について

平成27年12月11日(金)文部科学省において神戸女子大学 前田 富祺名^{とみよし}名誉教授が、文化庁長官表彰を受けられました。前田名誉教授は、日本語学研究者として「表外漢字字体表」や「改定常用漢字表」の取りまとめに尽力、国語語彙史研究の第一人者として研究の進展に寄与するなど、国語施策に多大な貢献をしておられます。

○大学都市KOBE!発信プロジェクト~好奇心を創り出す大学のあるまち神戸~

神戸市と市内の8大学が連携しながら、大学がもつ多彩な教育や研究成果の企画展示をグランフロント大阪北館 ナレッジキャピタル「ザ・ラボ」で行っています。

神戸女子大学は、平成27年12月18日(金)から平成28年1月22日(金)の期間、健康福祉学部社会福祉学科が、「高齢社会に挑戦する神戸女子大学」をテーマに、認知症予防と治療のための「回想法」の説明・展示・体験コーナーを開設しました。

社会福祉学科は、同じキャンパスにある同学部の健康スポーツ栄養学科、看護学部看護学科と共に高齢社会における在宅介護、在宅看護、健康づくりを考えています。平成28年1月17日(日)には、3学科の教員による研修・公開講座を開催しました。



展示の様子

Information

行事日程

1月

1	金	元旦	
5	火		<大学>後期授業再開
6	水		<短大>後期授業再開
11	月	成人の日	
16	土		大学入試センター試験(17日まで)
17	日		阪神・淡路大震災鎮魂の日
20	水		<大学>学友会後期総会
21	木		<大学・短大>一般入試前期(22日まで)
27	水		<短大>後期定期試験期間開始
29	金		後期授業終了(ポートアイランドキャンパスは2月5日終了)
30	土		<短大>ブルーム展(2月4日まで)

3月

4	金		<大学・短大>一般入試後期
16	水		<大学>学位記授与式・卒業祝賀会
18	金		<短大>第65回学位記授与式 卒業記念パーティー
20	日	春分の日	

2月

6	土		<短大>後期定期試験・補講期間終了
11	木	建国記念の日	
16	火		<短大>後期定期試験結果・追再試験発表
23	火		<短大>後期追再試験(26日まで)

4月

3	日		<短大>入学式
4	月		<大学>入学式
5	火		<短大>前期授業開始
6	水		<大学>前期授業開始
29	金	昭和の日	



表紙写真

プリンセス・ドゥ・モナコ

神戸市立須磨離宮公園 園長 山村 治

Princess de Monaco

地中海を望むモナコ公国にバラをこよなく愛した公妃がいました。隣国フランスの作家メリアンが、公妃に捧げたバラ「プリンセス・ドゥ・モナコ」。ときに優雅に、ときに可憐に映るそのバラの容姿はモナコ国旗(赤と白)をあらわしています。公妃の名はグレース・ケリー(Grace Kelly 1929-1982)。1956年、クール・ビューティーと称された銀幕のスターとモナコ大公レニエ3世(Rainier III 1923-2005)の成婚は、ロイヤル・ウェディングの先駆けと謳われました。その一見華麗な人生について、公妃は次の言葉を残しています。「落胆も人生の糧。悔やまず前に進む事が大切。痛みのない人生は価値がないのです。」これは新たな出発点や岐路に立つみなさんへのエールに聞こえませんか。今年10年を迎えるC・P連携という名のマリージュは、これからも人生という名の航海に旅立つプリンセスの物語を紡ぎ出す事でしょう。海を望むバラ園で、「公妃のバラ」から貴方へのメッセージを受け取って下さい。



編集後記

日本と地理的に、遠い国に親しみをもつことはありませんか。

今回発行の「神女広報CROSSROADS vol.21」は、北欧デンマークに関係する内容が三つありました。以前から交流のある体育アカデミーのエリートチームが神戸女子大学を訪問し、デンマーク体操の演技発表会と講習会を行いました。そして調査・研究、研修のために教員、学生が同国を訪れるなど、その体験や感想を耳にする、行ったことのない国に親しみを感じるような気がします。

お手元にお届けしている小誌を通して、読者の皆様に神戸女子大学、神戸女子短期大学を一層身近に感じていただきたるように、今年も多様なニュースを発信してまいります。

今回も発行までにご協力いただきました関係者の皆様に深く感謝し御礼を申し上げます。(M.O)

神女広報
CROSSROADS

編集・発行 学校法人行吉学園 学園企画部 学園広報課
〒650-0046 神戸市中央区港島中町4-7-2
TEL:078-303-4790 FAX:078-303-4857
ホームページアドレス <http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/>
E-メールアドレス gakuenkoho@yg.kobe-wu.ac.jp